

# 文化祭大成功！

# 宇 霊 羅

10月23日に文化祭が行われました。『演伝歌』のスローガン通り、炎天下のような熱量が、演劇・各作品や発表・合唱の全てに込められていたと思います。学年の保護者の方から頂いた感想を紹介いたします。



岩泉町立岩泉中学校

P T A 広報

第69号

令和3年12月24日発行



〈全校演劇〉  
湧窟の果てに



文化祭を参観して

坂下 美保子 (三A 雄斗)

文化祭スローガン「演伝歌」。まさに観ている方、一人一人に子ども達のその熱い思いは伝わっていました。二週間という短い練習期間の中で、それぞれが自分の役割をきちんと果たし、堂々と発表する姿に心から感動しました。

一生懸命歌う姿に頼もしさと今までの練習の努力を感じた合唱。三年生にとって最後でしたが、歌声がともきれいで美しいハーモニーに色々な想いで見入ってしまいました。

創作劇は、先人が守ってきたものを引き継ぐことの素晴らしさを感じ、最後に流れたエンドロールで沢山の方が関わって作り上げられたのだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

生徒の皆さん、先生方、素敵な文化祭を見せて頂いてありがとうございました。

文化祭を参観して

巽野 健一（二A 啓心）

県内のコロナ感染者が落ち着き始めたなか、岩中の文化祭を無事参観することができたことを嬉しく思います。今年は、合唱コンクールも全校創作劇も観ることができました。コロナ対策のため作品の展示スペースを廊下にも設置することは混雑を避けられ、ゆっくりと見ることができたためよかったです。

合唱は、そのクラス、学年の個性が出ていたと思いました。特に、三年生の合唱は心に残る感動的なものでした。どのクラスも練習で生まれた様々な壁を越え、当日を迎え、素晴らしい合唱になっていたと思います。

全校創作劇は、三年前と同じ題材である時の感動を再び味わわせていただきました。（三年前、長女が中三の時でした。）自然と涙がこぼれ落ちてきました。その長女と一緒に見ていましたが、長女はセリフの一字一句を覚えており、役者のセリフを聞きながら三年前を思い出しながら涙していたそうです。

岩中の創作劇は、役者だけが主役ではなく、小道具や照明、メイク係などそれぞれの係に分かれ、全校生徒全員で一つの作品を創り上げたいという気持ちで伝わってきた気がします。

この文化祭でそれぞれが得たことを三年生は卒業に向けて、二年、一年生は来年、再来年に向けて頑張っしてほしいです。



1年A組

「怪獣のバラード」



2年A組

「fight」



2年B組

「ガーネット」

文化祭を参観して

有原 智子 (一A 実花)

「みなさんは何のために、合唱を  
していますか。」

審査員の先生の言葉に、体育館  
の静けさがよりましたような気が  
した。そして、先生は「合唱は合  
わせるものではなく、合わさるも  
のだと思います。」と続けた。

子ども達はその言葉を聞いて、  
何を思っただろう。合唱コンク  
ールは、各組の二学期までの集大成  
と言っていいかもしれない。子  
ども達がそこに懸ける想いはどう  
だったのだろう。

先生は、それぞれが持っている  
力を余さず出し切ってほしいと思  
ったのではないか。それにとって、  
生まれ、合わさる合唱の一体感を  
観たかった、聞きたかったのでは  
ないかと思った。

来年の合唱コンクールでは、子  
ども達がフルに力を発揮できる  
か、期待したい。



# 家庭教育学級

## 一学年

十一月十三日  
に行われた家庭  
教育学級に参加  
された方の感想  
です。

家庭教育学級に参加して

佐々木 聡美(一A 夏鈴)

今回は「コミュニケーション」の取り方について勉強させて頂きました。「アサーション」「リフレーム」初めて聞く言葉でしたが、「コミュニケーション」を取るには大切な概念でした。お互いを尊重しながら率直な自己表現。自身とは違う視点でのポジティブな解釈。

講義の中でもチームを組み、限られた新聞紙でどれだけ高い物ができるか競争しました。同学年の親チームというところで、いつものおしゃべりの様に沢山の意見が出ました。形にしながら、煮詰め、結果三位を取ることができました。大人げないのですが、本気で楽しんでしまいました。

またこれが、初対面の人ばかりであれば結果は変わっていたでしょう。しかし、勇気を出していろいろな人と話しをしてみると、自分を知り、他者を知ることが出来ます。子どもたちにもぜひ実践してほしいです。

## 二学年

家庭教育学級に参加して

平石 友美 (2B 真唯)

先日参加した家庭教育学級は、「コミュニケーション」についての講演でした。言葉、会話だけでなく、頭と体を使った「コミュニケーション」を学んだのです。それは子ども達、親達がチームになり、新聞紙でタワーを作るというゲームでした。一番高いタワーを作ったチームの勝ちです。最初は、なんとなく遠慮して、子どもが作るのを見たりしていたのですが、周りからどんどん意見が出て、どうすれば高くなるかを真剣に話し合う内に、今まで話した事がない皆さんと、沢山お話をしていたのです。改めて、「コミュニケーション」の力に感激しました。

小学校の時より、子どもとの会話の時間が少なくなり、「コミュニケーション」がとれているか心配ですが、親子で過ごす時間や会話を、もっと大切にしようと思いました。

## 三学年

家庭教育学級に参加して

三上 美枝 (三年 陽楓)

社会課題の「コミュニケーション」のトピックについて講義と演習を通して楽しく学びました。

まず基本的な三つの「コミュニケーション」のトピックについて学んだ後、グループ対抗新聞紙タワーづくりに取り組みました。なんと上位三チームは全て保護者。やはり人生の経験値が物を言いました。ちなみに私の参加したチームは、四人で作戦を立て、一度失敗して、一気に方向転換。知恵を出し合いながら、後半の団結と集中力で一位に輝きました。

帰宅後、娘と講義で学んだアサーションの誰タイプかという話題で盛り上がりました。その結果、母子ともに外ではのび太、家ではシャイアン、でも理想はしずかちゃんというところでまとまりました。娘には話合いの意見の相違は否定ではなく良化するものと心得て、自分も相手も大事にしながら上手に人との関わりを持って行ってほしいと思います。

